

## 目次

1. 付録について
2. これまでの経緯
  - 2.1 東北地方太平洋沖地震発生まで
  - 2.2 東北地方太平洋沖地震発生から
3. 東北地方太平洋沖地震後に行われた検討
  - 3.1 2011年・2012年における検討
  - 3.2 2013年における検討
  - 3.3 2014年における検討
4. 地震活動モデルの概要
  - 4.1 地震活動のモデル化の方針と概要
  - 4.2 地震の分類
  - 4.3 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震の評価手法の概要
    - 4.3.1 評価手法の概要
    - 4.3.2 「大領域を用いる方法」の導入の経緯
    - 4.3.3 大領域の境界の設定
    - 4.3.4 「大領域を用いる方法」の導入の結果
5. 地震活動のモデル
  - 5.1 太平洋プレートで発生する地震
    - 5.1.1 長期評価された地震のうち繰り返し発生する地震
      - 5.1.1.1 千島海溝沿いの地震
      - 5.1.1.2 三陸沖から房総沖にかけての地震
    - 5.1.2 長期評価された地震のうち震源が特定されていない地震
      - 5.1.2.1 千島海溝沿いの地震
      - 5.1.2.2 三陸沖から房総沖にかけての地震
    - 5.1.3 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
      - 5.1.3.1 太平洋プレートの震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
      - 5.1.3.2 浦河沖の震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
  - 5.2 フィリピン海プレートで発生する地震
    - 5.2.1 長期評価された地震のうち繰り返し発生する地震
      - 5.2.1.1 相模トラフ沿いのM8クラスの地震
      - 5.2.1.2 南海トラフの大地震
    - 5.2.2 長期評価された地震のうち震源が特定されていない地震
      - 5.2.2.1 日向灘のプレート間地震
      - 5.2.2.2 日向灘のひとまわり小さいプレート間地震
    - 5.2.3 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震

- 5.3 陸側プレートの浅い地震
    - 5.3.1 活断層で発生する地震
      - 5.3.1.1 主要活断層帯で発生する固有地震
      - 5.3.1.2 「九州地域の活断層の長期評価」において評価対象とする活断層
      - 5.3.1.3 その他の活断層で発生する地震
      - 5.3.1.4 地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震
    - 5.3.2 長期評価された地震のうち繰り返し発生する地震
    - 5.3.3 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
      - 5.3.3.1 陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震
      - 5.3.3.2 日本海東縁部の震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
      - 5.3.3.3 伊豆諸島以南の震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
  - 5.4 南西諸島および与那国島周辺の地震
    - 5.4.1 与那国島周辺の地震
    - 5.4.2 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震
  - 5.5 これまでの地震活動モデルの変遷のまとめ
- 6. 地震カテゴリー分類
  - 7. 地震動の評価方法
    - 7.1 表層地盤モデル
    - 7.2 地震動予測式
    - 7.3 地震動予測式のばらつき
    - 7.4 2014年版で用いた地震動評価手法
  - 8. 評価結果
    - 8.1 2014年版のモデルによる評価結果
    - 8.2 2014年版のモデルと旧モデルによる評価結果の比較
      - 8.2.1 2014年版と2010年版の評価結果の比較
      - 8.2.2 2014年版と2013年における検討の評価結果の比較
      - 8.2.3 全国主要地点における超過確率とハザードカーブの比較
  - 9. 長期間平均のハザードマップ
    - 9.1 地震活動の評価モデル
    - 9.2 評価結果
  - 10. 今後の課題と展望
    - 10.1 地震活動のモデル化
      - 10.1.1 震源断層をあらかじめ特定しにくい地震のモデル化
      - 10.1.2 活断層で発生する地震のモデル化
      - 10.1.3 海溝型地震のモデル化

- 10.1.4 地震のカテゴリ分けの仕方
- 10.1.5 地震活動モデルの領域分け
- 10.2 地震動ハザード評価における不確実性の考慮
  - 10.2.1 地震の発生確率に関する認識論的な不確実性の考慮
  - 10.2.2 地震の規模に関する認識論的な不確実性の考慮
  - 10.2.3 認識論的な不確実性を考慮するための「重み」の付け方
- 10.3 強震動予測手法の高度化の検討
  - 10.3.1 距離減衰式の改良
  - 10.3.2 応答スペクトルの予測地図の検討
- 10.4 表現方法の問題
  - 10.4.1 専門家以外にも理解される分かりやすい解説
  - 10.4.2 低頻度の地震による地震動ハザードの表現方法
  - 10.4.3 地震動ハザード評価の不確実性の説明

#### 参考文献

#### 参考資料

- A-1 相模トラフ沿いの震源断層をあらかじめ特定しにくい地震のプレート間地震とプレート内地震の数の比率について
- A-2 日本海東縁部の地震の発生確率について
- A-3 従来のモデルに基づく震源断層をあらかじめ特定しにくい地震の最大規模
- A-4 震源断層を特定した地震の強震動予測手法(「レシピ」)